

DXハイスクール伴走支援事業

ブロック別の取組実践発表会

・研究協議会実施レポート

－ 11/7実施南関東・北陸ブロック－



実践発表会①（埼玉県立大宮高等学校）

実践発表内容

実践発表を受けたフィードバック（FB）・質疑応答

発表者	埼玉県立大宮高等学校
発表テーマ	デジタルスペースの環境整備
発表内容要旨	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ● 総合的な探究の時間において、データサイエンスを導入し、データ処理の基礎概念を生徒に指導 ● 株式会社ヒューノム研究所の「Humanome CatData」を導入し、各種データを組み合わせ分析 ● 株式会社リバネスにカリキュラム開発を依頼し、実験データを用いた実践的なデータ処理を指導 ■ 取組がうまくいったポイント <ul style="list-style-type: none"> ● 研究に携わる講師の指導で生徒の意欲が向上した ● データ分析の基礎を実践的に学ぶ機会を提供した ● データ分析からポスター作製まで探究活動の型を習得できた ● 解析ツールに初めて触れる教員に機会提供できた ■ 直面した課題と対応策 <ul style="list-style-type: none"> ● 導入したツールがサービス終了したことにより、新たなツール導入を検討する必要性があった ● 将来的には文系を含む全校に展開することが課題としてあるが、まずは理数科での導入を確実に形にし、成功事例を積み重ねている

指導・助言者によるFB	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取組内容は、1年生でデータの見方を学び理数科目や探究につながっており、事業目的と合致している ■ 特にデータの取り扱い方をポスター等で可視化することを、生徒自身の手で実践できた点が素晴らしい ■ また、教員が新しい技術に触れて授業に活用し、教員と生徒の学びが両輪で出来ている点は他校の参考になる ■ 今後は、ツールに依存しない形で授業を実施し、生徒が大学生や社会人になっても汎用的なツールで分析ができるようになることが理想である ■ 仮に予算がなくなったとしても継続できるように、マニュアル等を整備していけるとよい
質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 校内の先生を巻き込む工夫を知りたい ⇒ 若手教員の役割分担を決めて権限移譲してからは、自律的に動いてもらうことができた ■ 教員研修の実施対象範囲や回数はどうだったか？ ⇒ 昨年度は、リバネス社に講師を依頼し1回のみ実施した。人数制限があり、推進チームのメンバー以外に手を挙げて頂いた方も含め約10名で実施した ■ データサイエンスを取り扱った理由は？ ⇒ もともと探究活動を実施する中で、特に理数系の科目におけるデータの取り扱いが不十分と感じていたため



実践発表会②（神奈川県立総合産業高等学校）

実践発表内容

実践発表を受けたフィードバック（FB）・質疑応答

発表者	神奈川県立総合産業高等学校
発表テーマ	文理横断的・探究的な学びにおけるデジタルの活用方法
発表内容 要旨	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎→発展→自由探究の順番で積み重ねができ、科目毎の重複がないようカリキュラム整備を実施 ● 情報メディア概論等の自由探究相当科目を開講 ● 切替投影に対応した小型モニターをグループ毎に1台設置したLiSA roomを整備 ■ 取組がうまくいったポイント <ul style="list-style-type: none"> ● 座学の知識中心の授業から、「プログラム」「データサイエンス」「コンテンツ制作」の3つを軸にすることで、問題解決＋実践的な授業になった ● LiSA roomの整備で、ICT機器が充実しており、かつ協働的・探究的な学習がしやすい環境ができた ● カリキュラム整備により、目指す進路に対してどういう順序で履修すべきかが明確になった ■ 今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ● 「授業改善」を行うモチベーションの維持 ● モデル通りの履修を実現するための教員の確保 ● 全科目で、「探究的＋ICT」な学びを実現する組織的な授業改善

指導・助言者 によるFB	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工業系の教員をカリキュラムに配置して、人材育成ができている点は、学校の強みを活かしている ■ 既存カリキュラムにある重複部分をなくした構造は素晴らしいので、今後も継続いただきたい ■ セカンドモニターがあるLiSA roomは探究的な学びに最適で、他校でも同様の取組ができるとよい ■ 今後は、単元毎の詳細な取組内容を見える化し、教員や生徒がそれぞれの授業での進行状況を確認することができるようになると、校内での協力体制がより強まっていくのではないかと
質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専門の先生が不足する中でどのように生徒のサポートを行っているのか？外部連携も想定されるか？ ⇒ 本校には情報の専任教員がいるため、そうした教員が専門的な勉強をしながら生徒をサポート ■ 生徒が自発的に取り組んだ内容はあったか？ ⇒ 課題研究において、情報Ⅱで習得したWebシステムを使ってアンケートをとっている生徒がいた ■ 育成する人材をどう定義づけしたか？ ⇒ 3つの領域（ソフトウェア開発・データサイエンス・ハードウェア開発）に強い関心を持つ人材の育成と定義した。「関心」とつけた理由は、成果の測定は難しいが、関心を持って自ら努力していく姿勢が大事と考えたため

グループ協議① 発表内容

協議テーマ	参加校数 (グループ数)		グループ協議の発表内容
文理横断的・ 探究的な学び における デジタル活用	93校 (14グループ)		グループ1 <ul style="list-style-type: none">● 予算をどう探究活動に活かすか、購入する物品が定まらず悩んでいた学校が多かった● DX推進事業2年目の高校では、PCの購入等により地に足付けて探究活動を進めていく準備が整い始めていた● 教材開発がメインになり、生徒に展開することが難しかったが、今回の取組実践発表でその点を伺えた● DX加速化事業の意図をくみ取って実践できているのか分からなかったが、他校と話す中で悩んでいるのは同じ部分が多いことがわかった
デジタル スペースの 環境整備	39校 (6グループ)		グループ15 <ul style="list-style-type: none">● 私立と公立との差が激しい。私立は色々機材を買えたが、公立はインフラ整備がほとんどであった。人材育成に費用を回せていない● 同グループの学校では、アクティブラーニングルーム、ハイスペックPC、グローバルデジタルラボ、校内Wi-Fi、プロジェクター、VRゴーグル、プロジェクションマッピング、3Dプリンター、スマートグラス、2画面の黒板（校内・屋外用）、といった機器が導入されていたが、特にWi-Fiのインフラ整備の話が多かった

グループ協議② 発表内容

協議テーマ	参加校数 (グループ数)	グループ協議の発表内容	
情報Ⅱ等の授業での取組	23校 (3グループ)	<div style="background-color: #f4a460; padding: 5px;">情報Ⅱ等の開設・カリキュラム編成</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;">グループB</div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報Ⅱを開講しようとしている学校、総合的な探究で扱おうとする学校、学校設定科目で扱う学校それぞれがあった ● 課題として挙げられた中で多かったのは、情報Ⅱを教えられる教員がないこと ● 情報免許を取った人はいるはずなので、発掘する必要があると認識した ● 情報Ⅱ開設のため、時間割の編成上での授業を削るのかという話とともに、受験に絡んでこないため保護者への説明をどうするかなどが議論にでた
情報Ⅱ等の開設・カリキュラム編成	8校 (1グループ)		
デジタルスペースの環境整備	13校 (2グループ)		
文理横断的・探究的な学びにおけるデジタル活用	12校 (2グループ)	<div style="background-color: #66a6e0; padding: 5px;">デジタルの活用等に関連した校内研修の実施</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;">グループE1</div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 校内研修については、生成AIに関する研修がほとんどであった。リテラシーの部分から簡単な運用・基礎的な運用を行っていることがわかった
デジタルの活用等に関連した校内研修の実施	28校 (4グループ)		
生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進	24校 (4グループ)		
外部専門人材の活用・関連機関等との連携	25校 (4グループ)		